

「脇本小学校の山田楽伝承活動の取組」

1 学校名

阿久根市立脇本小学校

2 学年・人数

5・6年生（計51人）

3 日時・場所

(1) 練習等の日時・場所

令和5年7月8日（土）山田楽伝承式（6年生から5年生へ）

令和5年8月17日（木）～25日（金）山田楽練習（7日間）

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月22日（金）「山田楽」宮崎神社奉納

令和5年9月24日（日）小学校運動会（本校運動場）

令和5年11月11日（土）障害者支援施設「あいわの里」支援センター訪問

令和5年12月16日（土）阿久根市産業祭

令和6年2月3日（土）山田楽伝承活動四十周年記念式典

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

山田楽（やまだがく）

(2) 由来

今から約420年前の関ヶ原の戦いに由来し、名地頭と謳われた山田昌巖氏が考案したと言われる鉦と大小の太鼓からなる勇壮華麗な踊りである。山田昌巖氏の姓から「山田楽」と名付けられる。当時は一部の集落の踊りであったが、地区青年団により踊りが伝承され今に伝わる踊りとなっている。

(3) 構成等

山田楽の楽器は、①鉦（めはち）、②すり鐘、③大太鼓、④小太鼓の4種類で構成されている。衣装は、①鉦（めはち）は、黒がすり・白半ズボン・紅白たすきを身に付け、紫の頭巾を被る。手には黒の手甲、足には脚絆を付けわらじを履く。②すり鐘は、黒の長がすりに印籠を身に付け、飾り笠を被る。鉦と同様にわらじを履く。③大太鼓は、白地のゆかた・白半ズボン・たすきを身に付ける。飾り笠・黒の手甲と脚絆・わらじは他と同様である。④小太鼓は、はんでん・白半ズボンを身に付け、頭に手ぬぐいを被る。手甲と脚絆は水色で、わらじを履き、飾りの付いた背子を背負う。また、芸態は、戦勝を神社にて祈願する様子「祈願」、戦いに出る合図を表した様子「出陣」など、全部で8つの場面に分けて表現している。

5 保存会や地域との連携の具体

脇本小学校では、次第に衰退していくこの踊りを何とか継承したいという校区民の願いに応えるため、1984（昭和59）年以来、小学校5年生が伝承し、今日に至っている。その経緯から、保存会事務局は脇本小学校内にある。また、本校の全保護者が賛助会員となり、PTA会員の会費（年間300円）により保存会の運営を行っている。

指導者は、地域の有志者が中心となり、必要に応じて学校職員も指導する。練習の補助や市内外の祭りの送迎等については保存会育成会の保護者が全面的に支援している。また、地域の行事（グリーンフェスや産業祭等）に参加し

たり、地域の障害者支援施設を訪問したりするなど、地域の活性化にも貢献している。平成29年2月には、第50回全国子ども会育成中央会議・研究大会（久留米市開催）に県代表として出場し、踊りを披露した。令和3年度は、第29回地域伝統芸能全国大会に出場予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大会が中止となった。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 学校の教育課程に地域の伝統文化継承を学ぶ学習を位置付け、郷土を愛し、郷土を大切にすることを培うように工夫している。
- (2) 薩摩の「郷中教育」の精神に習い、児童相互に教え合う形式をとることで6年生（先輩）から5年生（後輩）へ伝承されるよう工夫している。
- (3) 活動を始めて40年の歴史があり、児童や地域住民の愛着も深く、子供たちが地域で活躍する場があることで、自己肯定感も育っている。
- (4) 小学校に保存会事務局を設置し、全保護者を賛助会員とすることで、保護者の協力が得られ、活動への支援体制が充実している。また、かつて踊った経験のある保護者も増え、活動を支援する輪も広がっている。
- (5) 平成28年度から阿久根市立折多小学校の6年生も夏季休業中の練習に3日間参加している。両校の進学先である三笠中学校でも山田楽が継承されており、令和5年度からは、施設分離型小中一貫教育の活動としても折多小の6年生とも協力して合同で練習し、三笠中を含め三校の交流を深める機会としても捉えている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【伝承式の様子】



【宮崎神社での奉納】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5年生児童】

- ・ 山田楽を通して友達と協力し合うことの大切さを学びました。くずしの部分を何回も間違えましたが、39期生が優しく教えてくれたことで、何回も練習するとできるようになりました。親鐘をする上で大切なことは、他の音を聞きながらしないと、少しずつリズムが速くなってしまいますので、しっかり音を聞くことを注意しています。一番心に残っている演舞は、市産業祭での山田楽披露です。運動会では知っている人がたくさんいたので緊張はしなかったのですが、市産業祭では知らない人もたくさんいて緊張しました。来年は私たちが41期生に教える立場なので、しっかり引き継いでいきたいです。

【教職員】

- ・ 山田師匠や第39期生の指導の下、練習に取り組みました。様々な場所で演舞披露を行う中で、40期生としての自覚が芽生え、粘り強く取り組んだり、協力したりする姿が見られるようになりました。また、たくさんの方に支えられていることに気付くことができました。